

機械的工法の一新例

大河戸博士の井筒連続沈下装置の發明

1

荒川鐵道橋基礎工事に使用中の井筒連続沈下装置は鐵道省第一改良事務所長工學博士大河戸宗治氏の發明にかゝり、之が製作は同工事の請負者たる合資會社間組の手になり、井筒工事の機械的設備としては恐らく世界に類例なきものたるに同時に、

日本に於て斯る土木工事の設備をなしたる事も未曾有の事である。正に之は斯界の一大進歩を云ふも敢て過言ではあるまい。

従來の井筒沈下工法は種々なる缺點があつた、先づ厄介なのは

荷重の積卸の不便。

井筒壁工事の休止。

井筒沈下の不正確。

等は最も著しいものであつた。今度の工法は之を全然除いたもので

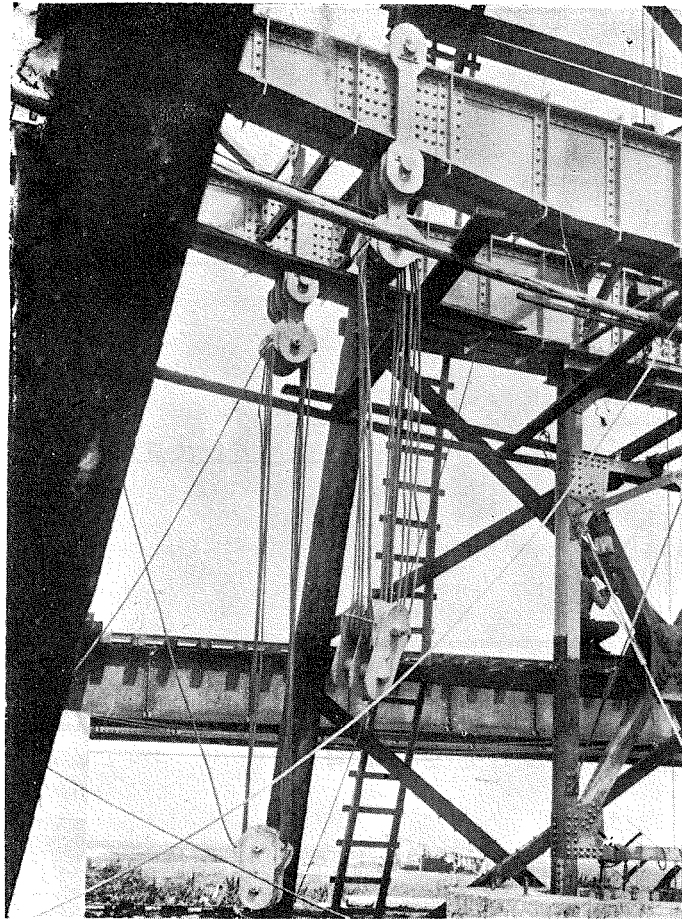
ある。

此の工法を特許したる大河戸博士の本意は、斯界に能く善用せん爲めであるが、何分一ヶ處の設備に約 20,000圓を要するに聞いては普通の請負業者では一寸の手が出せない、最も此の機械設備を充分に活用する迄には相

當の日數を要し、且つ熟練も要する事と思ふが、要するに工事は決斷實行、而して研究熟練が第一であるから、多少の改良案も出る事と思ふ、本編では其詳細を報道する爲め特許申請の正文を次に掲げる事にする。

正文は簡單であるが要領を得てをるから、圖面と對照して必ず精讀せられ度い。

(十頁へ續く)



(1) 井筒連續沈下装置機の上部分スガダの一
(1) Parts of the Cross Girder for the Pier Foundation Sinking Device.